

環境教育

委員：岡本、梶野、島、船本、南垣内、[黒飛]

事務局員：村井、吉留

[]は当日欠席委員

人材

- 地域の核となる人が少ない
- 環境教育指導者育成が弱い
- 青少年ボランティアなど養成ができていない
- 環境教育者を増やす
- 学校での継続的な教育、教育するための人材 持続可能な教育ができていない

組織

- 教育を推進するヒト、団体が見えにくい。その中での環境政策課の役割は？
- 環境教育推進の組織がない。

情報公開

- 情報共有のためのネットワークが弱い
- 「環境」情報が一般に届きにくい
- 施策の進捗状況に対する評価が自己評価のみで、第三者による評価がなされていない。
- 環境教育手法が常時見れる場がない
- 奈良市独自の環境教育の姿勢が見られない。奈良市の現状を伝えきれていない
- 学校だけに押しつけない、NPO など知らない人が多いのでは？

学校

- 幼稚園・保育園、小学校、中学校、高校で定期的な環境学習がない
- 学校教育は教育委員会の範囲で、役所内で連携できていない
- 他の担当課との取り組みになる場合、環境政策課がリードできているか、単に窓口になっていないか
- 意識の向上 とっつきにくい わかりやすい授業

行政

- 市役所内での活動
- 子どもエコクラブが有効活用されていない

- 各立場の現状把握 掘り起こし

地域

- 自治会などで環境学習する場がほとんどない
- 環境に関する生涯学習講座が少ない
- 環境に興味のない人に対して意識を持ってもらうのが難しい
- 家庭での教育（しつけ）、小さい時からが大事、親の世代の意識が希薄
- イベントなど一過性になってしまい、継続した啓発につなげられない

プログラム・内容

- 生き物教育→（地球温暖化）
- 奈良の鹿が苦しんで死んでいる =ゴミと密接に関係
- 植林、皮むき、間伐に参加する
- 水・ガス・電気といったものがどうなっているか見学する
- 水質汚染→合成洗剤の害！（琵琶湖の取り組みをベースに）
- ゴミとは何か？を考え、いかに減らせるかを伝える
- 小学校で地球温暖化対策などの共通プログラム（授業）がない
- 環境教育プログラムの提供がほとんどない
- 独自の環境プログラムが見当たらない
- 推し進めていく教育内容、目標が具体的でない
ある程度数値化してもよいのでは？

教育の場

- 地域内で環境体験をする「場」がほとんどない
- 環境体験を行える「場」が整備されていない
- 地域で学ぶ環境教育の場が少ない ○環境教育の拠点となる場がない
- 環境に関する知識の詰め込みに偏っていて、実践まで 踏み込めていない
- 都会の子どもでも自然と触れ合える場所を作る
- 田畑で作物を作ったりする農業体験をする
- 簡単に自然と触れ合える場所が近くにない、知らない
- 子ども会などを作って、自然へ出かける機会を作る
- 定期的な環境体験活動が提供されていない

自然・歴史

委員：井上^雅、岡野、中川、日月、伊藤、横山、[大花]

事務局員：桐山、安宅

[]は当日欠席委員

自然

山・森・空気

- 杉、桧等の人工材の手入れ不足で暗い森になっている
- 春日山原始林の立ち枯れが目立ってきている
- 春日山原始林（世界遺産）の保全と再生に全力をつくす
- 豊かな森を残す（人工林が荒れている）
- 森林の創生（第2の奈良公園を作る・松枯れの防止）
- 竹林の整備不良で竹が周囲へ広がっている
- 西部の開発が進む地区は、どんどん自然（木や緑）がなくなっている
- 森林の保全（間伐材の利用、人件費等で採算が合わないのが問題）
- 最近、全国に森林セラピーロードやパワースポットが認定されているが、奈良にはないように思う（高野山がパワースポット）
- 街路樹、公園の管理が十分でない（人間本位でやられている）
- 花と緑のまちづくり（街路樹の整備、都市緑化の推進）
- 街路樹をきれいに（木の剪定の仕方が悪い）
- 快適に暮らしたい（夏が暑すぎる）

農地

- 農地や緑地の保全と活用（観光農業など）
- 山間では、人が少なくなっているため、農地が荒れ、自然を守る役を受け継ぐ人が少なくなっている
- 地産地消のサイクルづくり

動物・植物

- 有害獣の被害が増え、山間部の畑には防護柵がめぐらされている（経済的損失）
- 奈良市内の動植物の再調査と絶滅の恐れのある品種の確認（生物多様性の保全）
- 動物が少ない（森や草原がなくなっている）
- 外来種が増え、在来種が減ってきている
- 安定して植物が育つ気候ではなく、温度の変化が激しい（米が不作）
- 山間に行かないとホタルが見られない

水

- 河川の公園化（秋篠川、富雄川などの遊歩道の整備とアンダーパス化の実現）
- 公園内の池のにごり
- 川の美化（佐保川等の桜等のように歩いて楽しめる道づくり）
- 池や川にメダカを取り戻したい（工場排水や家庭排水が問題）
- 里山、ため池を開発から守る（開発規制をする）
- 川で泳いでいる魚があまりいない
- ゲリラ豪雨に対する排水の備えがない
- ため池や川で泳ぎたい（水が汚れているのでできない）
- 河川をもっときれいにしたいが、下水道の普及や浄化槽の点検が進んでいない
- 秋篠川が汚い
- 子供がもっと外で遊べるように、里山や川の整備

歴史

- 歴史都市の防災力の強化（文化財に係る防災の組織化）
- 歴史的景観を保全（世界遺産（8つの資産群）とそのバッファゾーンの開発抑制）
- 地域（地元）や観光客に奈良の歴史（文化）を知ってもらう
- 平城旧跡を今後もPRし、観光客の流れを途切れさせず、お金を使ってもらい、よく知ってもらうことで、守っていく
- 観光客に対して、歴史や伝統、世界遺産のPRが不足している（知ってもらうことが、守ることになる）

文化財

- 寺院の駐車場でバスがアイドリング（文化財を排気ガス（SOx、NOx）から守る）
- 薬師寺等で車の排気ガスにより国宝が痛む旨の声が出ている
- 寺院等の建造物、国宝（仏像）の傷み（奈良公園や世界遺産の付近への自動車の乗り入れ禁止ができない）
- CO₂削減できれば、文化財によいと思われる（自家用車の乗り入れ自粛）
- ならまち、奈良公園への車の乗り入れ早期実現を図る（ただし、住民を除く）（地域活性化、文化財の保全につながる）
- 観光シーズンの自動車の量が多い
- 寺や神社の復元をできる大きい木がない
- 土日等の休日には、自動車が渋滞し、文化財に悪影響を与える（公共交通機関の利用促進）
- 文化財の保全（竜巻が発生したら困る）
- 奈良公園の鹿にエサをあげている人がいる

景観

町

- ならまちを歩いていて、車が走る音がすると、雰囲気がかくずれる（町の雰囲気を残す）
- なら町の民家の駐車場化が問題（民家を残す、緑を増やす）
- 観光をゆっくりしたい（歩きやすい道や自転車道の整備）
- 唐招提寺の入口のところに落書きがたくさんある

自然

- 休耕田の放置や個人菜園としての利用が、景観的に見苦しい
- 東部地区（山間）で産業廃棄物の処分場や解体工場が多く、周辺の環境を悪くしている

その他

- 西の京駅からの薬師寺への行き方が少し複雑
- 修学旅行生を除くと、10代の観光客が少ない
- アトピー・アレルギーの人をなくしたい（化学物質を減らす）

生活環境

委員：池田、井上^幹、栗岡、小松、瀬林、橋本、矢藤
事務局員：新井、南田

○見える不法投棄対策

○パソコン不法投棄抑えるコスト→市が無料で受

○集団回収

○取り締まりは・・・

○不法投棄

○ゴミ不法投棄撲滅のための実効ある対策

○騒音

○CO₂測定

○地下水汚濁対策

○規制の状況は（中核市となったために）

○放置自転車が減らない

○路上喫煙防止対策の拡大

○生活関係の条例化

○騒音おばさん

○ゴミ屋敷

○カラス対策・ハト対策

○中核市ならでは

○大型ゴミ依頼電話

○不法投棄ゴミ回収に係るコスト調査

○コストと効果の確認は？

○公共事業にも会計報告を

○3Rの経済性試算

○コストとのバランス

○環境対策コストの見える化

○NPO 自治会

○地域コミュニティの再構築

○エコバッグ奈良市特有（バサラ）

○レジ袋有料化

○有料化ゴミ（袋）

都市環境

委員：河野、三宅、向出、石田、[上市、北浦]

事務局員：油谷、松本

[]は当日欠席委員

- タバコやごみのポイ捨て、不法投棄
- 川をきれいにする（生活雑排）
- 奈良市には自然・歴史ゆとりのある街など豊かな環境がある。それを活かした街づくり
- 自家用車優先の街。歩行者にはこわい街になりつつある。

- ノーマイカーデーの実施
- 市民が参加している意識付またはキャンペーン

- 公共交通機関の利便性向上
- 公共交通サービス低下 ○マイカー通勤
- 通勤・通学において公共交通機関で可能な人は確実に実施
- コミュニティバスの運行 ○バス料金の見直し
- 高齢者の移動手段確保

- 宿泊観光客が増加しない
- 建築物のエコ化

- バリアフリーの充実

- パークアンドライドの拡充
- P&Bライドのシーズン実施
- カーシェアリング
- トランジットモール拡充（交通ネットワーク構築）
- 交通網（インフラ）の整備

- 駐輪所の確保

- 町並みの景観
- 電線をなくす（地中化）

- アイドルストップ運動及び場所の拡大
- アイドルリングストップ促進
- エコ運転 ○バスの小型化

- 都市のヒートアイランド
- 安全な街。耐震、火災、防犯
- 緑化不足→増やす
- 歩道の設備（花を植えるなど）

- 低公害車、電気自動車の導入促進
- LRT ○EV車促進
- 奈良公園内、EVバスで。
- バス、タクシー、公用車などのハイブリッド化、EV化を進める

- 交通安全対策
- 安全教育の不足
- 自動車レーンの設置
- 自転車道、歩道の整備
- 歩道は自転車に占拠されつつある

地球温暖化対策

委員：北端、田川、鶴保、植本、中村、[清水、村木]

事務局員：柴田、坂崎

[]は当日欠席委員

交通

- 運輸部門における省CO₂の取り組み
- 低燃費の小型車よりも、高出力のSUVを選んでしまう。
- アイドリングストップ
- バスの燃料のメタンガス化
- 市役所の公共交通利用
- 電気自動車（EV）の普及
- 自動車・自転車シェアリング
- メタンガスでバス
- ハイブリッド車の普及
- マイカー利用率が高い
- 自動車低公害化促進。市役所も目標値を。電気自動車の比率も。

学校・住宅

- ビル・学校・建築物、壁面緑化。
- ゼロエネルギー住宅
- 学校園、校庭の芝生化
- 断熱住宅

- 河川環境の保全、整備
- 利便性、経済性と環境負荷との両立は出来るのか。
- 観光客入込者をどう考えるか

事業者

- 小規模事業者の省エネ意識の低下
- 事業者（業務部門）における省CO₂の取り組み
- 省エネへの意識の高低差が市民にありすぎ。
- CO₂排出減を抑制。どこに求めるのか。
- 産業と環境の両立（つけをまわさない）
- エネ抑制と環境の両論性

再生可能エネルギー

- 再生可能エネルギー利用
- スマートグリッド利用
- 太陽光発電
- 風力発電
- メタン発酵ガス発電

関係機関の連携

- 日本の中での連携 { 東京
京都
奈良県、奈良市
- 県と市のコミュニケーションの希薄さ
- 寺社との連携

生活

- 家庭における省CO₂の取り組み
- 環境に配慮した生活の実践の難しさ
- 生活者の省エネ機器採用意識の低下
- エネルギー消費量意識の希薄さ
- 省エネ（家庭）
- 自然エネルギーへの関心の低さ

削減目標

- 温室効果ガス削減目標の設定（奈良県等、情報収集も）
- 省CO₂の目標値の明確化。
指標の明確化
- CO₂削減に適したエコポイント（減税）制度導入
- 10年後、市民一人当たりのCO₂排出量をどう見るか。
- 市民生活は過大なつけをまわさない。（何を期待するか。）

東部・山間部

- 東山地域の緑資源の活用策
- 東部・山間における植樹活動

啓発

- 環境家計簿の啓発
- 省CO₂施策の具体例の市民への啓発
- 環境教育のしくみづくり
- 温暖化対策についての意識が低い人への反応（知識としては分かっているが実践出来ない人への動機付け）

メタン発酵

- 事務のIT化で紙ゴミの低減
- 自然エネルギー活用促進。小規模発電 etc
- 焼却工場余熱利用と発電
- 生ゴミのメタン発酵（ガス）
- ゴミの年燃焼を止める。→メタン発酵

指標

- 夏にアブラゼミの声を聞かなくなった。逆にクマゼミはうるさいくらい。
- 子供のしもやけが少なくなった。
- 春日山原始林の冬鳥が減った。50m（100m）幅、1kmロードセンサス結果から。
- 環境に優しいと言っている製品も遠くベトナムやインドネシアから運ばれているとどうなの？